

## P58a 星形成領域 GGD12-15 の近赤外線観測

佐藤八重子、田村元秀、中島 康、神鳥 亮、日下部展彦（国立天文台）、永山貴宏、長田哲也（京都大学）、長嶋千恵、佐藤修二（名古屋大学）、IRSF/SIRIUS チーム

Herbig-Haro 天体である GGD12-15 を含む領域は、距離 830pc という比較的近傍にある全光度 L 6000 Lo の星形成領域である。この領域は、CO のアウトフローや水メーザー、HII 領域など活発な星形成の兆候があり、中小質量星のクラスターが存在していることが知られている。

我々は、南アフリカ・サザーランドにある IRSF の 1.4m 望遠鏡と 7.7' × 7.7' の視野を持つ JHKs3 色同時サーベイ用カメラ SIRIUS を近赤外線撮像観測を行ない、この領域で生まれている星の population および空間分布を調べた。本講演では、その画像データ解析と過去の観測よりも多数の YSO 候補星を用いたクラスターについての議論を行う。さらに、JHKs3 色同時撮像偏光装置 SIRPOL による観測から得られた星雲の構造および磁場構造についても議論する予定である。